

アートと 障害を考える ネットワークフォーラム 2024

アートと障害を考えるネットワークでは
新規会員募集中です!

お申込みはこちら
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkageizyutsu/330759.html>



令和6年

6.23

13:30~16:30 (開場:13:00)

滋賀県立美術館 木のホール

(滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1)

参加費

入場無料 (定員70名:事前申込(先着順))

会場開催

+

後日アーカイブ配信※
(講演1の配信はありません。)

*全てに手話通訳あり *ヒアリンググループあり

※YouTubeにてアーカイブ配信



手話通訳



ヒアリンググループ

詳細は下記HPをご覧ください。

滋賀県HP

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/e-shinbun/oshirase/337703.html>

滋賀県立美術館HP

<https://www.shigamuseum.jp/events/7609/>

*ご参加にあたり、サポートが必要な方は事前にお問い合わせください。



筆談対応
できます



駐車場



車いす貸出



車いす対応
トイレ



オストメイト
対応トイレ



おむつ替え
シート



授乳室



車いす対応
エレベーター

アートと障害を考えるネットワークについて

「アートと障害を考えるネットワーク」では、障害のある人による美術表現を軸に、多様な表現や鑑賞のあり方の可能性を考え、ひいては共生社会の実現にも資する情報提供を行っています。

多様性のある社会をめぐる2つの取組

講演1

東 ちづる

俳優・一般社団法人Get in touch 代表

アートで「まぜこぜの社会」をめざす

※講演1のアーカイブ配信はありません。



講演2

関根 祥平

studio COOCA 施設長

世界を変えるにはまずは自分から。
地域での実践を通じた気づきと学び



ディス
カッション

東 ちづる 関根 祥平

コメンテータ

岩原 勇氣

特定非営利活動法人 BRAH=art. 理事長

聞き手 保坂 健二郎 滋賀県立美術館ディレクター



お申込み方法

申込受付期間

令和6年6月1日(土) 9時~19日(水) 17時

1 しがネットでのお申込み
先着順

お申込みはこちら→



2 FAXでのお申込み

代表者の氏名・電話番号・FAX番号・合計参加人数

「アートと障害を考えるネットワークフォーラム参加希望」と記載して、問合せ先までお送りください。

主催
問合せ先

滋賀県文化芸術振興課美の魅力発信推進室(滋賀県立美術館内)

TEL.077-543-2111 FAX.077-543-2170 E-MAIL sc0003@pref.shiga.lg.jp

講演 1

13:30~14:30

アートで「まぜこぜの社会」をめざす

アートや音楽などの力を用いて、すべての人がもっと自然に、もっと気楽に、もっと自由に暮らせる“まぜこぜの社会”をつくる取組について話していただきます。

*「アートで「まぜこぜの社会」をめざす」は、会場でのみ聴講いただけます。後日のYouTubeでの配信はありません。

東 ちづる 【あずま ちづる】

(俳優・一般社団法人Get in touch 代表)

会社員生活を経て芸能界へ。ドラマや映画、コメンテーター、司会、講演、出版など幅広く活躍。骨髄バンクやドイツ平和村、障がい者アート等のボランティアを30年以上継続。2012年に一般社団法人Get in touchを設立。東京2020オリパラ公式映像「MAZEKOZE アイランドツアー」の企画・構成・衣装デザイン等、総指揮を担当。2023年「TEDxKyoto」スピーカー登壇。近著に、自ら描いた妖怪61体を社会風刺豊かに解説した「妖怪魔混(まぜまぜ)大百科」(ゴマブックス)など著書多数。2023年WOMAN's VALUE AWARD個人部門 個人賞受賞 他受賞多数。

一般社団法人Get in touch

Get in touch(ゲット イン タッチ)は、さまざまな創作活動や表現活動に取り組み、音楽やアート、舞台、映像などのエンターテインメントを通じて、誰もが自分らしく生きられる多様性社会の実現を目指しているプロボノ(仕事を通じて得た知識や技術、経験を生かした社会貢献)団体。

長く社会活動を続けてきた俳優の東ちづると仲間たちが、東日本大震災時の避難所でマイノリティの人々が追い詰められるような事例が起きていることを知ったのが、団体を立ち上げるきっかけになる。多様性が認められる社会を“まぜこぜの社会”と表現し、その実現をめざしている。

講演 2

14:40~15:30

世界を変えるにはまずは自分から。地域での実践を通じた気づきと学び

誰もが生きやすい社会とは何か。福祉施設だからこそできるケアを真ん中に据えた社会貢献。地域社会での実践を通して模索する中で得た気づきと学び。

関根 祥平 【せきね しょうへい】

(studio COOCA 施設長)

ARTや創作という言葉には、言葉に縛られない自由がある。

クワカに来るまでにどれだけの選択肢があったのだろうか。

少ない選択肢や経験の中で人生を決めるのは誰だって難しい。

福祉施設がその人生のモラトリアム期を支える場所であっていいはず。

社会との接点を創りながら、様々な経験を通して人生の一時を共に歩める場所が必要だ。誰かに指示されたことを制限時間内にきっちり終わらせることに終結するのではなく、自分のペースで思うようにキャンパスの上で筆を走らせる。

自分が自分の人生のハンドルを握るんだ。

自分が主人公の人生を送るんだ。

そのためには立ち止まって、どうやってくか?を考える時間が必要だ。

studio COOCA

2009年に設立された神奈川県平塚市内の障害福祉サービス事業所(生活介護・就労継続支援B型)。好きなこと、得意なことで仕事を得る。ことを目指し、アート・デザインを手法として「どうやってくか?」をテーマに活動を続けている。ギャラリーや公共スペース、美術館での展示やワークショップ等を積極的に行う。自社製品開発から商品パッケージデザインの企業への提供など、各種メディアで作品を目にすることも多く、国内外のアートマーケットやデザイン関係者から高い評価を得ている。日々多くの見学者が訪れ、施設内のギャラリースペースだけでなく建物内がコミュニティの起点として機能している。

ディスカッション

15:40~16:30

コメンテータを交え、上記の登壇者とディスカッションを行います。

(聞き手 保坂 健二郎 滋賀県立美術館ディレクター)

コメンテータ

岩原 勇気 【いわはら ゆうき】

(特定非営利活動法人 BRAH=art. 理事長)

2004年に社会福祉法人びわこ学園入職。2014年、「障がいがあるうとなかろうと好きなこと得意なことを仕事にして精一杯生きる」をテーマにNPO法人BRAH=art.設立。2015年、隠れ家のおしゃれ居酒屋跡テナントを居抜きそのまま、障害者日中一時支援事業所「yafa~」開設。2017年、瀬田の唐橋東詰めガソリンスタンド跡地に「cafe&gallery spoons」生活介護事業所「office-cosiki」開設。2019年、atelier ikkai-sankai 開設。瀬田唐橋まちづくりの会、OtsuLivingLab 等、まちづくり系の企画にリンクワーカーとして従事している。

一般社団法人とこ理事、株式会社ホモ・サピエンス取締役

アクセス

- 公共交通機関をご利用の場合: JR琵琶湖線(東海道本線)「瀬田駅」(京都駅から普通電車で約17分)下車、「大学病院」行きのバスに乗り(約10分)、「県立図書館・美術館前」または「文化ゾーン前」下車(便によって停まるバス停が異なります)、美術館までは徒歩約5分
 - お車をご利用の場合: 新名神高速「草津上インター」から約5分・びわこ文化公園駐車場(無料・3ヶ所)利用、美術館までは徒歩約5分
- *なるべく公共交通機関をご利用ください。
*お身体の不自由な方は、びわこ文化公園東駐車場の有人ゲートからお車を乗り入れて、美術館までお越しいただけます。

